

最後に特に注意して置くべきことは、西藏字の母音を表はす爲に、今日使用されざるゝ記號の用ゐられて居る事である。此の記號は拉薩の唐蕃會盟碑にも見えるし、また前記敦煌から出た漢蕃對譯語彙の斷片、その他中亞出土の文書經典類にも見える。寺本氏の西藏文法にも此の事を注意して(第五頁)、拉薩の碑文にはへ即ちiの形を反對に變じて用ゐてあると記されて居る。シルヴン・レギー教授に之について意見を聞いて見た事があつたが、矢張寺本氏と同様の考であつた。實際に就て考へて見てもi母音を表はしたことに於て疑は無いが、併し此等の兩記號が全然同一のiを寫すものならば、何の要あつてかく兩形を用ゐたものか、殊にXXVII-9の例について見るやうに、一漢字音を寫すに當つて二個のiを用ゐた場合に、一つはi、一つはoを態々狭い場所に書き並べて、之が爲に兩者相重なる有様を呈して居る。かゝる次第によつて考へると、此の兩者の間には同じi音にしても、或はその間に音の輕重の如き點が存したものでは無かつたかとも思ふが、今は自分には何とも定め得ないから、兩者共に同一のiを以て寫すことにした。

〔1〕 a 語尾 ang (iang, uang) を含む) の o (yo を含む) と成れるもの

(今音)

VIII-4 mo

mang

XXVIII-9 賞 go

shang

X-2 傍 bo

p'ang, pang

XXXII-3 抗 kho

hang

XIV-2 將 tsyo

chiang

XXXIII-1 兩 lyo

liang

XIV-3 相 syo

hsiang

XXXVIII-7 囊 no

nang

XXVI-5 曠 kho

k'uang

XXXVIII-8 廂 syo

hsiang